抗議文

＜抗議文受取拒否＞住民の声をどこまで無視し続けるのか
社長と知事との約束「ウソをつかない」をまたも反故に
傲慢な九電に私達の命の安全をゆだねるわけにはいかない

2018 年 3 月 27 日

(株)九州電力　代表取締役社長　瓜生道明　様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会／プルサーマルと佐賀県の100年を考える会
玄海原発反対からつ事務所／原発を考える鳥栖の会／今を生きる会／原発知っちょる会
風ふくおかの会／戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／たんぽぽとりで
東区から玄海原発の廃炉を考える会／福岡で福島を考える会／あしたの命を考える会
陽だまりたんぽぽの会／ようこそ学習会／ ミラクルスイッチ／脱原発！いとしまネットワーク

3 月 23 日、九州電力は住民の不安と反対の声を無視して、玄海原発 3 号機の再稼働を強行しました。
私達は、いつか原発事故が起きて、放射能によって健康を害され、故郷を奪われてしまうかもしれないという恐怖を抱えて暮らしていかねばならなくなりました。

この日、多くの市民が九電に抗議の意を伝えようと、発電所現地と九電本店に集まりました。私達は瓜生社長宛の抗議文を提出しようと、事前に申し込みをし、当日もその場から電話で対応を求めましたが、九電は受け取りを頑なに拒否しました。担当者がその場に出てもきませんでした。

2 月 16 日の燃料装填の際にも、私達は発電所において抗議文を受け渡そうとしましたが、「今回限り」ということを一方的に条件にされました。これを許してはならないと、3 月 1 日の九電交渉の場において、「今回限り」の撤回と、「お客さまの信頼を第一に、さまざまな声や思いをきっちりと受け止める」という九電CSR憲章の理念の順守、「ウソをつかない」という瓜生社長と山口佐賀県知事との「約束」、すなわち住民との約束の順守を、求めました。
さらに、3月 19 日の佐賀県議会原子力安全・防災対策等特別委員会において、井上祐輔県議が住民からの抗議文を拒まず真摯に対応するよう、山元・九電取締役に求めました。山元取締役は「九電として抗議でどういうことを言っておられるのか、どういうことをご心配なのか、きっちりお話をお聞きして、回答すべき」だと述べました。県議会での発言は住民との約束であり、重たいものです。

このような経過がありながら、九電は約束をわずか 4 日後にまたも反故にしたのです。山口知事は 23 日にも九電に対して「ウソをつかない」ことを繰り返し求めましたが、一体、何度ウソをつくのですか。
「フェイス・トゥ・フェイス」で理解活動を進めると言いながら、なぜ要望や抗議の意を伝えにくる消費者と会うことさえも拒むのですか。
一方的に放射能被害を押し付けられることになる住民の声を聞き、納得いくまで説明するのは加害当事者となる九電の義務です。なりふり構わない経済優先、安全軽視、住民無視の企業体質の九電に、私達の命の安全・安心を脅かす原子力発電所を運転する資格はありません。

今回の「受取拒否」に対して断固抗議するとともに、九州電力が住民無視の姿勢を悔い改め、住民の声に真摯に向き合い、原発をすべて止めるという方向へ舵を切ることを切に求めます。